

早稲田大学 法学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	全体の難易度は昨年に比べやや難化して平年並みとなった。出題形式・論述の字数とも昨年と同じ。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	新から隋の統一までの中国史	冒頭第1問が中国前近代史というのは例年通り。正誤判定の決め手も容易に特定でき、大半の問題は基本的知識のみで判定が可能。	易
II	東西文明の衝突と融合をテーマとした西洋古代・中世史	幅広く出題されているが、個々の設問の内容は基本的なものばかりである。早とちりや思い込みさえなければ確実に得点を重ねられる。	易
III	産業革命から帝国主義にいたる西洋史	産業革命関連では設問5が微妙な内容。正解となる①の「女性・子供の10時間労働」を規定したのは1847年の工場法。問題文が「19世紀前半」という指定なのできわどい。また、設問4のチャーチスト運動は、労働者の団結権ではなく普通選挙権を要求。設問8の正解④のフィージーはドイツではなくイギリスが獲得した。	一部難
IV	17・18世紀の植民地戦争と独立後の合衆国	正誤判定の決め手になる事項が非常に細かい。自信をもって解答するには膨大な知識量が必要とされる。ここは正攻法ではなく、消去法や「怪しげな」文を嗅ぎ分ける一種の臭覚で対処したい。問2の①…クロムウェルが護国卿となったのは1653年、航海法は1651年で誤り。③…英がオランダからニューアムステルダムを獲得したのは1664年で第2次英蘭戦争(1665～67)の直前だから誤り。誤った文が2つあり、出題ミスと思われる。とりあえずはどちらでも丸になるだろう。問8の②は「補助艦」が誤り。	やや難
V	19世紀初めから青年トルコ革命までに至るオスマン帝	昨年のスウェーデン関連に比べると一般的テーマで取り組みやすい。字数も昨年と同じ。6つの指定語句を並べると自然と文が出来ていく。文体は教科書風となって平面的になってし	標準

	国の近代化	<p>まうが、これだけ語句を指定されると個性的な視点を強調するような文は作れないだろう。あまりこだわって時間を浪費しないよう気をつけたい。</p>	
--	-------	---	--

〔総合コメント〕

出題形式・分野の配分は中国前近代1問は例年通りだが、論述が西アジア史になったので西洋史は昨年の4問から3問に減った。

法学部世界史定番の論述も200～250字で昨年と同じ。例年、正誤判定問題の一部は難問で得点は難しく、また微妙な表現にまどわされることは避けられないので取りこぼしも覚悟しなくてはならない。そこで、配点面からいってもしっかりと得点しておきたいのが最後の論述問題というようになる。3教科ともぶっちぎりの高得点で合格をねらえる少数派は別として、大多数の受験生はきわどい得点差が合否をわけている。法学部の場合、かなりの受験生が論述の出来不出来が決定打となっていよう。何度も書きかえたりすると、最終的には時間不足に陥って不本意な文になってしまうこともある。時間配分に留意すると同時に、普段から時間を意識して論述問題の演習を繰り返すことがなにより大切である。